

令和3年度 学校評価計画表

教 育 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ・ ものづくりとビジネスの実習・演習を通して技術を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成を目指す。 			総合評価		
運 営 方 針		「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立を目指す。					
昨年度の成果と課題		本 年 度 の 重 点 目 標		具 体 的 目 標			
<p>主体的に挨拶をする生徒が多くなり、社会のルールやマナーを遵守することへの意識の向上が見られる。生徒会の活動も徐々に活発になってきている。</p> <p>進路意識を高める取組みの成果は見られたが、自身の進路実現に十分に向き合いきれない生徒もいることから、今後も自分を見つめ進路に向き合う姿勢を持たせる取組みを継続し、一人ひとりにあった進路指導を展開していく必要がある。</p> <p>令和4年度から導入される新学習指導要領に対応する魅力ある教育課程作成に向け、内容を十分に吟味し、生徒へのよりよい教育の提供に努める。</p>		(1) 主体的に学ぶ意欲を養い、各教科・科目の学習内容の基礎基本を定着させ、着実な学力の向上をめざす。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年・科別のシラバス、評価の観点を示し、学ぶことの大切さを理解させ、基礎学力の定着を図る。 ・ 自己の目標を明確にし、その達成に向けた取組の一貫として資格や検定の受検を奨励する。 			
		(2) 集団や社会の一員としての自覚を高め、自己実現への積極的な態度を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人としての生き方やあり方について考えさせ、自己の進路を見つめさせる。 ・ 地域の一員として、挨拶運動や奉仕活動を実施する。 			
		(3) 生徒と心の通う人間関係を築き、基本的生活習慣や自己管理能力を培う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールやマナーを身に付けさせ、規範意識の向上を図る。 ・ 一人ひとりの生徒が抱える課題を理解し、適切な支援を行う。 			
		(4) 安全教育の充実を図るとともに、安心して学校生活を送ることができるよう環境の整備に努める。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中の様々な危険を想定させ、安全な行動をとらせることができるようにする。 			
		(5) 職員の勤務状況を的確に把握し、過重な勤務や特定の職員への偏重が少なく、支え合っで職場課題を解決する職場環境を創造し、勤務時間と健康の管理を意識した働き方を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の日常を観察するとともに面談を必要に応じて実施し、状況の把握につとめ、職員間で共有することで相互理解を促し、目標達成に資する。 			
評価項目	具体的目標（評価小項目）	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標		自己評価結果	成 果 と 課 題 （ 評 価 結 果 の 分 析 ）	改 善 方 策 等	学校関係者評価 （結果・分析）及び改善方策
学習指導	わかる授業・学力を付ける授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教員が当該教科・科目のシラバスを作成するとともに、これを用いて年度当初に生徒へ学習の目的や学習内容、評価方法を周知する。 ・ 各教員が、当該教科・科目においてその都度、学習内容等を再度周知し確認する。 ・ 機械・ビジネスの専門教科で、シラバスを活用して、指導方法や教材の工夫、学習方法の把握の仕方などについて情報交換を行い、指導力の向上に努める。普通教科間でも同様の取り組みを行う。 ・ 適宜、生徒による授業評価を行い、その結果を授業改善に生かす。 ・ 観点別評価に則した授業内容を研究し、アクティブラーニングを積極的に実践していく。 					
	個に応じた指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間考査後の成績を職員間で確認・分析し、情報共有のもと個々の生徒の学習状況を把握・確認する。 ・ 常に学習の必要性を生徒に説明し、成績不振者への指導において、普段の学習が進級や卒業に影響することを自覚させる。 ・ 個々の生徒の興味関心や学習意欲を高めるために、授業では一斉指導とともに、生徒各自の理解度に応じた課題を行う時間を設けるなど、きめ細かな指導を行う。 					
	資格・検定の取得に対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取得可能な資格や検定の情報を広く生徒に提供し、資格取得への関心を高める。 ・ 生徒の実力を考慮しつつ、将来役に立つ資格や検定を絞り込み、資格の取得や検定合格に向け重点的に取組ませる。また、これらの資格検定については、より多くの生徒に受験するように働きかける。 ・ 機械科、ビジネス科で取り組んでいる資格や検定について生徒の段階に応じて教師が呼びかけ、取得意欲を盛り上げていく。 					

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 （評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価 （結果・分析）及び改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻防止を徹底し、基本的生活習慣の確立を図る。（昨年度の10%減） 挨拶の励行、時間厳守及び自己管理を徹底し規範意識の向上を目指す。 各授業や学校行事等に臨む際の姿勢や態度などにおける基本的なマナーの向上を図る。 交通安全教室及び登下校指導等を通して、通学時の安全確保に努めるとともに、交通マナーの向上を図る。 月1回生徒にプリント（たばこのお話等）を配布し、たばこの害に関する意識を向上させるとともに、薬物乱用防止教室を通して薬物の恐ろしさを認識させる。 個別面談や家庭訪問で把握した生徒の状況について、教職員間での情報共有に努める。 				
	生徒会活動の活性化及び部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員の主体的活動や生徒会行事の活性化を図り、充実した生徒会活動につなげる。 部活動の勧誘を積極的に行い、加入率を昨年度より上回るようにする。（昨年度の10%増） 				
人権文化	人権学習LHRの充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権感覚を高めるために、人権の視点を大切にしたものを見方を深めるための人権教育HRの充実を図る。 様々なテーマ（「部落問題」「在日外国人問題」「障害者問題」「性的少数者の人権」「感染症に関連しての不当な差別や偏見」等）の人権学習から多様な見方、考え方を身に付けさせ、人権についての知識理解を深める。 				
	校内生活体験発表会に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 過去の発表作文を教材としてLHRを行い、発表者の思いを共有することで体験作文を書くことの手立てとする。 同じ学校で学びあうなかまとして、なかまの思いに共感し、共有することで生徒個々の自尊感情を高め、自己実現への意識を高める。 				
	図書館利用の奨励	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション等により利用の心得や必要な知識を習得させ、読書や教科学習の資料収集など、図書館利用への意欲を喚起させる。 				
	特別支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する生徒の把握に努め、生徒、保護者、教職員の共通理解のうえ、支援が行えるようにする。 継続的な支援が行えるように体制を整える。 				
進路指導	本校卒業後の進路を考えさせる機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「進路希望調査・キャリアパスポート（全学年）」「自己点検カード（1年）」「進路資料」等を利用して生徒理解に努め、本校卒業後の進路を考えさせる機会づくりを行う。 進路に関する情報資料提供を随時行う。 				
	4年生の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> 就職・・・生徒理解に努めながら支援する。（就職相談、企業訪問、応募前職場見学、各関係機関との連携、就職面接試験対策、事務処理等） 進学・・・将来の職業選択に繋がるような指導、情報提供を行う。（進学相談、学校訪問、学校案内・募集要項の取り寄せ、学校見学・体験の紹介、指定校受付案内、入試対策、事務処理等） 				
	各種奨学金の案内・申請等の事務処理	<ul style="list-style-type: none"> 「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学給付金」「日本学生支援機構奨学金（給付・貸与）」「石澤奨学金」などの案内・申請等の事務処理を適切に行う。 				

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
環境保健 体育	体力の向上	・スポーツテストを通じて、生徒の運動能力を把握し、課題を明確にするとともに、年齢層に応じた体力の向上の取組みを行い、運動への興味・関心を高める。				
	健康保持増進と安全教育の充実	・定期健康診断や各種検診を計画的に実施し、生徒個人の健康状態を把握し各検診の受診率90%以上を目指す。家庭との連携を密にして受診勧告書の回収率の増加（昨年比）を目指す。 ・防災教育を充実させ、実践的な避難訓練を行い、自分自身の身の守り方等の意識付けを行う。				
	環境整備と環境美化への意識向上	・随時、施設の安全点検を行い、環境整備に努める。 ・環境美化への意識を高めるため、各HRの環境委員会を中心に自主的な清掃活動に取り組ませる。				
機械科	基礎的、基本的な知識と技能の習得を目指す。ものづくりへの興味・関心の育成とともに各種検定試験への支援を行う。	・座学で学習した内容をしっかりと理解し、その知識を用いて加工する手順や方法を考え、作品をつくり上げる。 ・作業後のレポート作成により実習内容の再確認を行い、学習内容の定着を確実にする。 ・機械科に関する各種検定試験について、放課後及び長期休業期間を利用して支援する。 ・作品製作に重点を置くことにより、完成の喜びを味わわせ、ものづくりの楽しさを認識させる。				
ビジネス科	基礎基本を定着させるための授業方法の工夫及び各種検定試験（希望者）への継続的な支援 新しい教育課程や評価制度の研修を深める。	・ICTを活用するなどにより、授業展開の工夫改善を行う。 ・授業内容を通して資格取得に興味・関心をもたせ、受験者を増やせるようにする。 ・各種検定試験受験希望者に対して、放課後の補習や部活動を通じて継続的な支援を行う。 ・教育課程や評価について、教員間の情報交換を年間2回以上行う。				
第1学年	定時制高校の生徒としての基本的な生活習慣を身に付けさせる。	・自己点検シートの記入により自己理解(学習面・生活面)をさせる。 ・年度当初の個人面談、家庭訪問、中学校訪問等により、積極的に生徒理解に努め、さまざまな場が学習の機会であることに気付かせる。				
第2学年	基本的な生活習慣の確立 学習意欲の向上 学校生活の充実	・学校生活と仕事を両立させ、欠席・遅刻を減らすよう指導する。 ・挨拶の励行やマナーの向上について継続的に指導する。 ・基礎学力を定着させるため、きめ細かい指導を行う。 ・専門学科の特色を活かし、実習、技能講座、検定試験等に積極的に取り組むよう指導する。 ・学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に取り組むよう指導する。				
第3学年	基本的な生活習慣や自己管理能力を身につけているか点検させる。 進路目標を設定させ、最終学年に繋がるようにする。	・進路目標の実現に向けて、社会人として必要な基本的な生活習慣、マナー、モラルの定着を目指す。 ・生徒一人ひとりに将来の目標をしっかりと見つめさせ、具体的な進路選択が可能となるように支援する。				
第4学年	生徒一人ひとりの自己実現をめざして進路指導の充実を図る。	・生徒各自が自己の将来設計ができるように、日頃の面談や保護者との相談を密に行うことで適切なアドバイスを行う。 ・就職や進学試験対策に必要な基礎学力や面接対策等のきめ細かな指導を行う。 ・社会人として必要とされるマナーやモラルの指導の充実を図る。 ・就職や進学に関する情報を収集し、HR活動や面談を通じて生徒に知らせる。				